



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1932, 12(132): 154-157

ISSUE DATE:

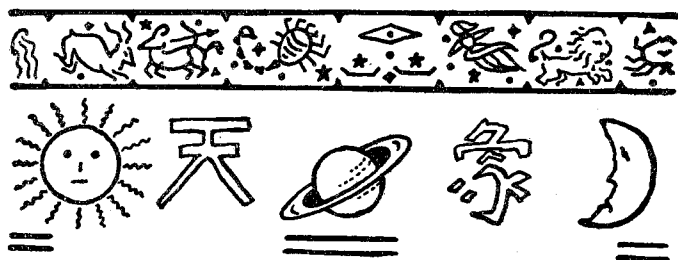
1932-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161896>

RIGHT:

一九三三年



四月

太陽

日	赤 經	赤 緯	視 直 徑	星 座
1	0時41分 6秒	北 4度25分	32分 3秒	う を
11	1時17分39秒	北 8度12分	31分58秒	う を
21	1時54分40秒	北11度45分	31分53秒	ひ つ
(翌1)	2時32分24秒	北14度59分	31分47秒	ひ つ

太陽は月始めは白羊宮に在るが、20日から金牛宮に侵入する。又た、16日頃には時差が0となる即ち、正午に眞太陽が南中するので、日時計の示す時刻はそのまゝ、普通の時計と一致するわけである。尙月始めの時差は四分三秒丈け眞太陽時（即ち日時計の示す時刻）の方が遅れてゐるが、15日正午には9秒遅れ、16日正午には6秒進みとなり、以後はずんずん進んで、月末には2分48秒丈進む。即ち、30日の正午前2分48秒に太陽が南中するのである。地球からの距離は月始め一億四千九百萬軒、月末一億五千萬軒。日の出は1日5時45分、11日5時31分、21日5時18分、翌月1日5時7分、日の入は1日6時18分、11日6時26分、21日6時34分、翌月1日6時42分である。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
新 月	6日午前10時21分	29分29秒	う を
上 弦	14日午後 0時16分	30分53秒	ふ た
満 月	21日午前 6時27分	33分32秒	を と
下 弦	28日午前 0時14分	30分57秒	を や
遠地點通過	7日午後 2時30分	29分27秒	う を
近地點通過	21日午前 5時12分	33分32秒	を と
昇交點通過	5日午前 0時36分	29分37秒	を う
降交點通過	19日午前 4時48分	33分14秒	を と

月が1分間に天球上を如何程運行するか？ 特別に地球に接近した彗星でもない限り、天體中で見掛けの運動の最も速いものは月である。今月中で、月が最も速い運動を示すのは23、24日頃で、1分間に約41秒(角度)づゝ運動する。併しこの速度は一定ではなく、5日頃が最も遅くなつて1分間に約29秒程の運動となる。地球からの距離は最近の時に35萬5千軒、最遠の時に40萬5千軒である。

本月の月の出は1日午前3時26分、6日午前5時30分、11日午前8時7分、16日午後1時9分、21日午後7時14分、26日はなし、翌月1日午前2時50分、月の入は1日午後1時48分、6日午後6時38分、11日午後11時32分、16日午前2時34分、21日午前5時8分、26日午前9時27分、翌月1日午後2時40分である。

遊 星 界

水 星 月始め宵の星であるが、次第に太陽光芒中に隠れて見得なくなり、10日午後8時に内會合となるので、其の前後は全く觀望不能である。又た會合の後には曉の星となり、次第に太陽光芒から離れるので月末になる程觀望にはよく來月上旬には西方最大離角となる。尚ほ、月始めは逆行してゐるが、23日午前5時に停留となり、以後順行に移る。29日午後6時に遠日點を通過する。地球からの距離は月末、月始共に約一億浬、最近は14日で八千六百萬浬。

1日午前9時の位置は	赤經1時27分47秒9	赤緯北12度46分1秒
12日午前9時の位置は	赤經1時7分46秒7	赤緯北9度17分53秒
23日午前9時の位置は	赤經0時52分17秒9	赤緯北4度31分31秒
30日午前9時の位置は	赤經0時59分30秒5	赤緯北3度48分37秒
視直徑は月始め9秒6、10日に11秒4、月末に9秒4。光度は月始め正1等3、10日に正3等2、月末に正1等1。		

金 星 宵の明星として西天に輝やき、20日午前4時には東方最大離角45度42分となるので、今月は觀望には最も好都合。望遠鏡で見ると丁度上弦の月に似た型で、今後は次第に細く缺けて行く、地球からの距離は月始め一億三千萬浬で、月末には九千五百萬浬にまで接近する。

1日午前9時の位置は	赤經3時31分0秒4	赤緯北21度31分40秒
16日午前9時の位置は	赤經4時37分14秒5	赤緯北25度22分39秒
30日午前9時の位置は	赤經5時35分46秒0	赤緯北27度4分38秒

視直徑は月始め19秒6であるが、月末26秒6となる。光度は月始め負3等8、月末4等1である。

火 星 曉の東天に在つて見得ない事はないが、まだまだ觀望の時期ではない。來年の接近の時期まで待たねばならぬ。

1日午前9時の位置は	赤經23時54分57秒1	赤緯南1度34分52秒
30日午前9時の位置は	赤經1時17分9秒1	赤緯北7度20分53秒

視直徑は4秒0、光度は正1等4である。地球からの距離は大體三億五千萬浬足らずである。

木 星 宵の南天に輝やき、月始めは午後8時半頃南中するが、月末には午後6時半頃南中する様になる。9日午前2時停留となり、以後順行に移る。位置は γ 座で、地球からの距離は大體月始め七億一千万浬、月末七億七千万浬である。

1日午前9時の位置は	赤經9時1分49秒0	赤緯北17度57分12秒
30日午前9時の位置は	赤經9時4分13秒6	赤緯北17度44分16秒

視直徑は月始め38秒7、月末35秒4。光度は月始め負1等9、月末負1等7である。

土 星 曉の東天の星、位置は γ 座にあるが未だ觀望の時期ではない。地球からの距離は月始め十五億四千萬浬で月末十四億七千萬浬である。

16日午前9時の位置は	赤經20時25分54秒5	赤緯南19度27分50秒
視直徑は14秒半より15秒にまで増加する。光度は大體正0等9、17日に於ける輪の長徑は37秒3、短徑は12秒4で、現在は輪の北側表面が見えてゐる。		

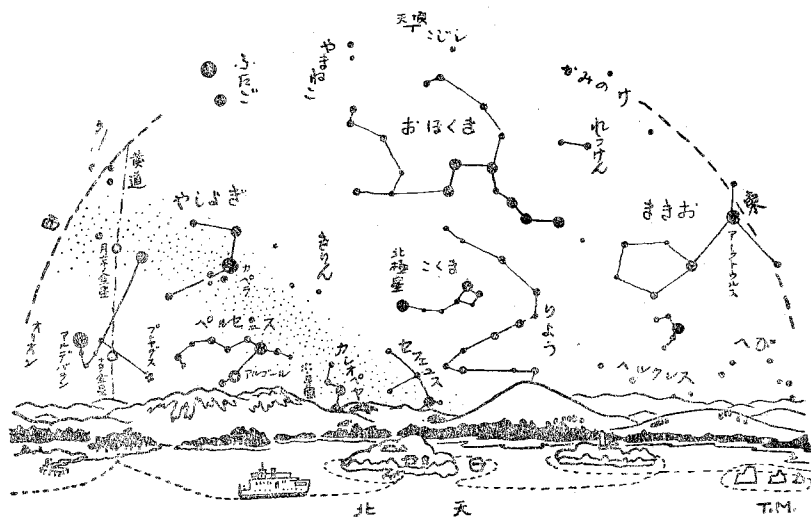
天 王 星 9日午後7時に太陽と會合。従つて今月は觀望不能

15日午前9時の位置は	赤經1時13分28秒3	赤緯北7度8分18秒
視直徑は3秒3、光度6等3。地球からの距離三十一億浬程である。		

海 王 星 木星の東 γ 座にあり。地球からの距離は四十四億浬である。

15日午前9時の位置は	赤經10時30分16秒1	赤緯北10度15分6秒
視直徑は約2秒5であり、光度は約7等7程である		

冥 王 星 觀望の望める星ではないから太陽系の一員として名丈知ればよい。

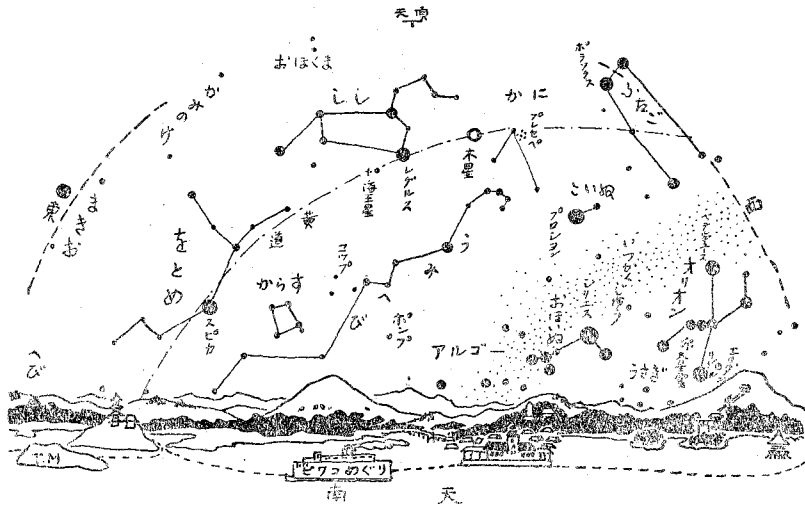


恒 星 界

今や春の星座が天一ぱいに擴がつて、賑やかだつた冬の星座も殆んど西に傾いて、丁度春ののどかな日を思はせる様な、柔かい光に満ちた星座達が吾物顔に春を謳歌してゐる様である。其の代表的な「しし」、 β と γ も全姿を現はして、長い身體の「ヒドラ」は南の空にのびのびと横たはり、天頂には「こじし」が座を占めて、 α は北に高く、東の空には「かんむり」、 δ へび、 ϵ てんびん」等が現はれ始めてゐる。銀河は西の天を横切つて南北を流れ、 ζ セフェル、 η カシオペアは北の地平線に近い。

今午午線を通過してゐる「しし」星座は、よく獅子の鎌として知られてゐる形である。即此星座の西半分は鎌の型又は「？」を裏返へしにした形であるので此の名がある。又東半分は三星が直角三角に並んでゐて此の二組で此の星座の形は出来上つてゐると言へる。主星はレグルスであつて、丁度鎌の柄の所にある、此の星は四天王星の一つで、黄道より僅丈け北側にある。尙四天王とは、此の星と「うし」のアルデバラン、「さそり」のアンタレス、「みなみう」のホウマルハウトの四星を言ひ、黄道に沿ふて略同距離に分布されてゐるので此の名がある。鎌の曲り目に近くある星は γ 星で、黄道から丁度9度北にあるので、黄道の北の境界線を示すわけで、此の星より北側を通る遊星はない。直角三角形の東端に位置するのは β 星で又たデネボラと言ふ。尙ほ γ 星とレグルスを結んで延長すると大體「うみへび」の主星に達する。

扱てその「うみへび」星座はまるで川の流れの様に細長く、南北は北緯10度から南緯35度までにあるに關はらず、東西へは105度の長さに達し、こんな長い範圍を含む星座は他にはない。此の星座の東端に近い星はR星であつて、この星は變光星であり、3等5から10等1まで變光し週期は413日6である。光度曲線は大體に於いて減光増光に共に同じ位の日数を要するが、それでも減光の方が増光より急であつて、増光の途中に極く僅かではあるが一種の瘤をつけた様な光度曲線となる事が屢々ある。本年の極大は二月上旬であつたので、現在は減光を續けてゐる。



太陽系

月と遊星との會合. 5日午前5時37分に火星と會合するが、新月に近く觀望困難である。6日午後6時59分の天王星との會合も新月のため見られない。續いて7日午前0時1分に水星と會合するが同様に見えぬ。飛んで10日午後3時12分金星と會合、金星の北側1度59分の所を通る。15日午後8時48分に木星と會合し木星の北側2度47分の所を通過する。17日午後0時51分には海王星と會合し、その北側1度9分の所を通過する。最後に27日午後5時38分に土星の南側3度57分の所を通過する。

遊星同志の會合. 今月は斯かる會合が3回ある。最初は水星と天王星とで、10日正午に起り、水星が北側3度12分の所を通る。次は21日午後5時に火星と水星との會合があり兩者の距離は甚だ近く、僅かに0度15分である。併し曉でなければ見る事が出来ぬから觀望には翌22日の朝がよい。水星が北側を通る。最後の會合は火星と天王星であつて、30日午前4時に起る。丁度其の頃東天に現はれるのでよく見る事が出来る。此の場合は前のより更に近く、兩者の距離僅かに0度10分で火星が南側にある。小望遠鏡で見ると面白いであらう。

太陽と遊星との會合その他. 先づ會合は9日午後7時に天王星と太陽と會合し、次に10日午後8時に水星と内會合する。次に25日午前6時に土星は太陽と西距となる。即ち今後次第に觀望にはよくなる。最後に29日午後6時に水星は遠日點を通過する。

流星群. 今月では「こと」座流星群が最も顯著であらう。出現の時期は大體21日を中心とした一週間位であつて、20日から22日までは特に注意する必要がある。輻射點の大體の位置は赤經271度、北緯33度附近。尙輻射點の位置は日々移動するから21日の値を上記した。此の外の流星群としては「おとめ」座流星群。これは大略16日頃から25日頃まで現はれる。輻射點は大略赤經213度、南緯10度附近。火球の飛ぶ事がある。又た、月末の頃には「りゅう」座流星群がある。輻射點の位置は赤經291度、赤緯58度附近で、「りゅう」座デルタ星近傍である。